

事業所名

障がい児通所支援事業 子ども支援の家 いっぼ

支援プログラム

作成日

2026年

3月

24日

| | | | | | | | |
|-----------|-------------|--|-----|-----|---------|---------|--|
| 法人（事業所）理念 | | 1969年7月20日、人類で初めて月面着陸に成功した。その際に発した、「That's one small step for a man, one giant leap for mankind.（これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である。）」という言葉である。「たかが一歩、されど一歩」子どもたちにとっては小さな一歩かもしれないが、振り返る「いっぼ」、前進する「いっぼ」、その場に立ち止まり考える「いっぼ」、未来に向けて、色々な一歩が大きな「いっぼ」になるようにサポートしていくという意味で会社名を「合同会社One Step」事業所名を「いっぼ」にした。また、SDGs（持続可能な経済対策）で掲げられているように多様性を受け入れ、子どもたちやその保護者が児童福祉に関する支援・サービスを受け、私達は地域社会での参加・包容（インクルージョン）を推進し、より質の良い生活を営める様に障がい者通所支援で求められている個々の障がいの状態及び発達の過程・特性等に応じて一人一人丁寧にその子どもたちにあった発達支援を行い、そして子どもたちを支える周りの環境を整えられるように保護者や家族の支援も大切していくことを当事業所の理念とする。 | | | | | |
| 支援方針 | | 別添資料1 | | | | | |
| 営業時間 | | 9時 | 00分 | 18時 | 00分 | 送迎実施の有無 | あり なし |
| 支援内容 | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | 定期的な心身の把握（検温・視診）や生活リズムの安定を図るための支援をする。 構造化を意識した部屋のレイアウト・視覚的支援をする。 SSTなどによる身体的・精神的・社会的訓練の支援をする。 衣服の着脱・身だしなみや整い方の支援をする。 | | | | | |
| | 運動・感覚 | 姿勢保持や上肢・下肢の運動動作の改善の支援をする。 視覚・聴覚・臭覚・固定覚・前庭覚などの感覚活動の支援をする。 微細運動を通して指先のトレーニング・ビジョントレーニングの支援をする。 音楽療法を通して音楽に合わせて身体を動かす遊びや運動支援をする。 | | | | | |
| | 認知・行動 | 物の機能や属性・形・色・音が変化する様子、空間認知機能・タイムスケジュール等の時間概念の形成を図ることにより、それらの認知や行動の手がかりとして活用できるように支援する。 季節の変化への興味、天気・気温・日付の把握と確認、感覚・数の認知形成の支援する。 小集団での適切な行動形成の支援、認知の偏りによる行動支援の配慮する。（ABAなどによる感覚認知の偏りに対する支援） | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | 文字・記号・絵カードなどの適切なコミュニケーション手段を選択活用、ルールなどの視覚化支援をする。 集まり・帰りの会等で自己紹介や他己紹介、自分の気持ちや振り返りの表出、受容の支援をする。 個別または小集団での障害の特性に応じた読み書きの支援をする。 PECSなどを使いコミュニケーションスキルの向上を支援する。 | | | | | |
| | 人間関係社会性 | アタッチメントの形成の支援をする。 地域施設などの社会見学、イベントなどを通じた地域との交流を支援する。 一人遊びから協同遊びそして小集団と発達に応じた参加を促し、遊びの中から模倣行動へ社会性や対人関係の芽生えを支援する。 自己理解、自分の気持ちと情動のコントロールが出来るように支援する。 | | | | | |
| 家族支援 | | 出来ていることに着目する予防的な支援（PBS）をベースとした関わり方。 保護者へのサポート（ペアレントトレーニング） 家族の負担を軽減していくための物理的・心理的支援 | | | 移行支援 | | 児童発達支援から放課後デイサービスへまた保育所等訪問支援へ可能な限り地域の保育・教育等の支援が受けられるようにし、かつ同年齢の子どもとのかかわりが出来るように支援する。 |
| 地域支援・地域連携 | | 関係機関との連携を取り本児の生活の安定を図る。 保育所・学校などの訪問支援を行う。 | | | 職員の質の向上 | | 特性を理解するスキルアップ研修を行う。 |
| 主な行事等 | | 課外活動（社会見学・工場見学） 季節の食育活動 | | | | | |